土佐日記（帰京）　＊＊＊

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。［50点］

京に入りたちてうれし。家に至りて、門に入るに、月[a]［明かし］ば、いとよくありさま見ゆ。聞きしよりもまして、言ふかひなくぞこぼれ破れ[b]［たり］。家に預けたりつる人の心も、荒れたるなりけり。①中垣こそあれ、一つ家のやうなれば、望みて預かれるなり。さるは、便りごとに物も絶えず得させたり。今宵、②かかることと、声高にものも言はせず。いとはつらく見ゆれど、志はせむとす。

さて、池めいてくぼまり、水漬ける所あり。ほとりに松もありき。五年六年のうちに、千年や過ぎにけむ、かたへはなくなりにけり。今生ひたるぞ交じれる。おほかたの、みな荒れにたれば、「あはれ。」とぞ人々言ふ。思ひ出で[c]［ず］ことなく、思ひ恋しきがうちに、この家にて生まれし女子の、もろともに帰らねば、いかがは悲しき。船人もみな、子たかりてののしる。かかるうちに、なほ悲しきに堪へずして、ひそかに心知れる人と言へりける歌、

A生まれしも帰らぬものをわが宿に小松のあるを見るが悲しさ

とぞ言へる。なほ飽かずやあらむ、また、B［　　］かくなむ。

見し人の松の千年に見［　　］ば遠く悲しき別れせましや

忘れがたく、口惜しきこと多かれど、え尽くさず。ウとまれかうまれ、疾く破りてむ。

問一　［　　］a～cの語句を適切な活用形に直しなさい。

問二　波線部A、Bの後に省略されている語句をそれぞれ答えなさい。

問三　傍線部①、②を分かりやすく現代語訳しなさい。ただし、傍線部②は「かかる」の内容を明らかにしながら訳しなさい。

問四　二重傍線部ア「物も絶えず得させたり」とあるが、なぜ作者は贈り物を与え続けたのか。理由を説明しなさい。

問五　二重傍線部イ「千年や過ぎにけむ」について、この表現に込められた作者の気持ちとして適切なものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア　家敷の中が荒れ果ててしまうほど長い間都を離れていたことに対する絶望感。
イ　全く世話をせずに松を枯らしてしまった隣人のずさんな対応への皮肉。
ウ　わが子だけでなく大切な家まで失ってしまったことに対する喪失感。
エ　時間の流れのはやさに気づかずに漫然と過ごしてきた自分自身への怒り。

問六　「見し人の」の歌について、次の(1)、(2)に答えなさい。

(1)　空欄に入れるべき助動詞を考え、最も適切な活用形に直して答えなさい。
(2)　「遠く悲しき別れ」とはどのような別れか、具体的に答えなさい。

問七　二重傍線部ウ「とまれかうまれ、疾く破りてむ。」について、次の(1)、(2)に答えなさい。

(1)　「とまれかうまれ」はある表現が音便化したものである。音便化する前の形をひらがな九字で答えなさい。
(2)　何を破るのかを明らかにしながら全体を分かりやすく現代語訳しなさい。

問七		問六	問五	問四	問三		問二	問一
(2)	(1)	(1)			②	①	A	a
								b
		(2)					B	
								c

学年
組
番号
氏名
得点

土佐日記（帰京）　＊＊＊

〔出題の意図と留意点〕　文脈を把握しながら、記述問題を通じて状況を分かりやすく説明する練習を積むことが、今回の出題のポイントとなる。文法問題では正確に品詞を理解し、また、逐語訳ではない自然な現代語訳を施すことが大切である。

☆解答例と配点

問一　ａ　明かけれ　　ｂ　たる　　ｃ　ぬ　〈２点×３〉

問二　Ａ　子（女子）　　Ｂ　詠める　〈３点×２〉

問三　①　隔ての垣根はあるけれども　　②　これほど家敷が荒れ果ててしまっていること　〈４点×２〉

問四　隣人に家敷をきちんと管理してもらえるよう期待していたから。　〈７点〉

問五　イ　〈４点〉

問六　(1)　ましか　　(2)　土佐での死別　〈４点×２〉

問七　(1)　ともあれかくもあれ〈４点〉　　(2)　ともかく早くこのような日記は破ってしまおう。　〈７点〉

計50点